

16の小学校で「寺子屋」

子どもも高齢者が 楽しく字んでいます

放課後の小学校で子どもたちと地域の高齢者などのボランティアが一緒に学ぶ「寺子屋」。本年度から市教育委員会の新規事業としてスタートしました。現在、ボランティアの体制が整った十六校で実施されています。今回はその目的などについて生涯学習課で話をお聞きするとともに、岩神小と大胡東小の様子を取材しました（担当は市民編集委員・伊丹、杉山）。

「寺子屋」事業についての問い合わせは生涯学習課 890 5824へ。

この「寺子屋」は、放課後の小学校の教室を利用して、子どもたちと高齢者を中心とした地域のボランティアと一緒に学ぶ事業。主に一・二年生の児童が対象で午後二時から四時までの時間帯で、週に二・三回、参加希望者がドリル学習などを行います。

子どもにとっては、学力の上とともに、大人や高齢者との交流によって心豊かな人格形成に役立たせることが目的です。一方、ボランティアにとってはドリル学習による脳の機能活性化が図られるとともに、身近自立機能の改善にも医学的効果が認められています。

さらには、現在、子どもたちを巻き込んださまざまな事件が

地域や学校などで発生している中で、「地域の子どもは地域で育てる」という意識の向上、さらには健全育成にも期待がもたれています。

違う世代が 共に心豊かに

核家族が増える中で、子どもたちがおじいちゃん、おばあちゃんや日常的に接することが少なくになりました。また、少子化が進みます。放課後から夜まで、子どもたちが違う世代と一緒に過ごす時間がないという家庭も多いのではないのでしょうか。こうした現状は豊かな人間性

をはぐくむためだけでなく、子どもたちを犯罪から守り、健全に育てる上からも課題になってくるのです。家庭・学校・地域が一体となって、子育てをするために、この「寺子屋」での取り組みが大きな力になります。

地域の中に、子どもたちの顔見知りの大人や高齢者がたくさん増え、毎日の登下校の安全が高まり、地域の活性化にもつながるでしょう。学校の中だけでなく、子どもたちが外で伸び伸びと楽しく遊べる環境づくりにも効果が期待できます。

今後の課題は

何でしょうか

現在は十六校で実施されていますが、来年度はすべての小学校で行うことが目標です。そのためには、子どもたちの学習を支援する高齢者などのボランティアを集めることが不可欠。自治会や老人クラブなど、地域の団体と学校が協力して、意欲のある人を確保しなくてはなりません。

せん。

また、週一・三回実施する中で、誰がいつを担当するのが割り振りなどを管理する必要があらります。実施校でも、今は校長・教頭先生に任せきりになっているところが多いようですが、割り振りのコーディネーターのようなボランティアの存在が必要でしょう。

どちらの課題も、地域に住むわたしたち一人一人ができることから実行することが大切です。この積み重ねで地域が中心になった「寺子屋」が実現します。こうした取り組みによって、未来を担う子どもたちが、思いやりや感謝の気持ちをもつて、豊かな心の大人に成長していったほしいものです。